

2回目：令和6年10月30日(水)	
テーマ	能登地震救援活動より報告
内容	<p>能登地震救援活動より報告</p> <p>『災害 多職種シュミレーション』</p> <p>『避難所の実際』</p> <p>『能登半島地震における物資支援の現状と課題』</p> <p>『急性期以降の災害対応まとめ』</p> <p>災害医療センター救命救急科部長 長谷川栄寿 様</p> <p>災害医療センター救命科医師 高田浩明 様</p> <p>災害医療センター救命科医師 辛紀宗 様</p> <p>災害医療センター診療看護師 高以良仁 様</p> <p>災害医療センター診療看護師 山本宏一 様</p> <p>参加人数：56人</p> <p>職種：医師4人、歯科医師3人、薬剤師6人、理学療法士1名 看護師15人、介護支援専門員14人、社会福祉士1名 施設管理者・施設職員4人、訪問介護員1人、行政職員7人</p>
アンケート結果 (一部抜粋)	<p>①感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発災直後のことばかりに注目してしまっていたが、避難生活や生活復旧・安定までの支援は長く、支援を受ける側・支援をする側共に心身に大きなストレスがかかること、互いに配慮すべきことが山積みしていく現状を学ぶことができた。</li> <li>・実際現地で救護活動を行った先生方の講演を聞き、現場の写真で状況を見ることができた。いつ災害が来るかわからない、そのためには過去の災害からの反省点を生かし、多くのことを想定しながら事前準備できることから取り組む必要があると学んだ貴重な時間だった。</li> </ul> <p>②今後ご自身や医療機関・施設において、対策が必要と思われること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常災害のマニュアル作成や研修は行っているが、どうしても危機感は足りていないのが現状。職員に今回の研修内容を周知することで、災害に対して人ごとにならないようにしなければならないと思っている。</li> <li>・災害発生時にBCPどおりに行動ができ、必要時に包括が機能して役割を果たせることを考えたい。また救助や物資が動き始めるまでをしのぐことができるように防災の働きかけをしていきたい。</li> </ul>